

「柴田式一発合格の技術～入門講座応用編ガイド～」

1 法科大学院入試の仕組みと現状

適性試験→大学院ごとの入試を受ける

- ・適性試験の重要性は→未修者，既修者で異なる
- ・大学院の選び方は？
- ・二次試験の最近の傾向は？

↓ 最短2年間のカリキュラム#既修者で，落第しないことが条件
法科大学院の卒業後，新司法試験を受験，合格により法曹の卵→1年の修習

2 司法試験結果分析

(1) 既修者が圧倒的に強い

既修者の出願者は未修者の出願者より若干多い程度

→合格者は，未修者の合格者が既修者の合格者のほぼ半分

- ・これまでの主張がデータから裏付けられた。

#それでも未修を目指したい人は？未修で実績が高い大学を選ぶべきなのか？

(2) 大学選びについて

- ・全体的に言えば，旧司法試験での実績に比例して順当な所に落ち着く。

1回目で意外な実績を上げた大学も2回目はそれほどでもない

#2回目で意外な実績を上げた大学は？

- ・旧司法試験で高い実績を誇る大学→6割前後でどこも合格率はそれほど変わりはない

∴上位ローにこだわる意味はあるが，その中でえり好みをする意味はない

- ・旧司法試験で全く実績がなかった大学と実績が中間的（合格者10名程度の大学）の大学

→差が縮まっている

意外にも健闘している大学が散見される

中堅大学が低迷している

結論；受験するなら既修上位者ロー

実績が全く出ていないことは気をつける



LL07638

3 新司法試験合格への道

(1) 適性試験→国立大学の未修で特に重要

(2) 大学院ごとの入試

- ・ 大学選びをどうするか
- ・ 法学の勉強をどうするか→旧司法試験の利用
- ・ 法学・適性試験以外の対策をどうするか

(3) 大学院入学後の問題点

- ・ 特に未修者→その大学の合格率のさらに半分を目安に
 - ・ 3年間の勉強スケジュール→やることは絞り込むこと
- ∴法科大学院との両立，確実な知識の習得

4 試験合格メニュー

(1) 旧司法試験合格メニュー→論基礎・択基礎の受講と復習，模擬試験と問題集の活用
一部のカリキュラムがスリム化→より合格のため最適なものになる

(2) 法科大学院入試に向けた勉強カリキュラム

- ・ 既修者入試を目指せ！
- ∴入試に有利，新試験に合格しやすい，未修者法科大学院の授業の現状

合格までのスケジュールリング

- ・ 法学の勉強以外で，やるべきことに枠を設定すること
 - ・ 法学の勉強→論文式試験の対策を中心に
 - ・ 適性試験対策→まずは過去問を解いてみよう
- # 旧司法試験をあえて併願するのも手→近くて高いハードル

(3) 法科大学院入学後→新司法試験合格のカリキュラム

- ・ 1年目；知識の習得。LEC入門講座基礎編・応用編の知識の見直し
- ・ 2年目；1年で旧司法試験に合格するつもりで，論文式試験の勉強を中心に
短答対策は，予備校の知識習得本（選択肢別本等）を利用
- ・ 3年目；新司法試験の特色に合致した勉強
予備校の模擬試験，問題集を利用し，問題を解きまくれ！